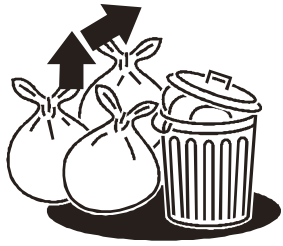


ごみ問題の今!!

「ごみ焼却施設の何が問題か」

講師：ゴミ弁連会長 梶山 正三 弁護士



日時 7月23日(水) 19時~21時
(18:30 開場)

場所 白馬村ウイング 21
参加費 無料(カンパ歓迎します!)
主催 ごみ連協

要約筆記
有ります



大町・小谷のみなさんも一緒に考えてみませんか?

大町・白馬・小谷3市村が共同使用するゴミ処理施設の最終候補地として『白馬村・飯森』がある日突然に発表されてからはや1年5ヶ月。この間、私たちが取り組んだ「白紙撤回署名」には、村内外から多大なご協力をいただき、集まった**村内約4,750名(51.2%以上)、村外約14,700名の署名をもとに計画の白紙撤回(一時凍結)と、住民・専門家を交えた再出発検討委員会の発足を訴え続けてきました。**

しかし、現在進められている白馬村内での2巡目の住民説明会で、**広域連合は「活断層の不安はない」「最新の施設は大気汚染の心配がない」と主張し、(この建設を)理解してくれと言うばかりで、賛成も反対も含めた十分な話し合いや議論する場を設けることなく、9月頃アンケートをして決定する意向を示しています。**このままでは両者が理解し納得するような施設になるとは到底思えませんし、もし建設されてしまえば、この焼却施設が負の遺産として私達の心と体に深く、長く傷を残すのではないかとただただ不安に思うばかりであります。

そこで今回、各地で起こっているごみ処理施設関係の問題を数多く手がけている梶山正三氏をお招きし、大北3市村の皆さんがたくさん集まれる会場を用意しました。

私たち大町・白馬・小谷の**3市村の誰もが「ごみ問題」「候補地問題」を根本から一緒に考えていただけたら**と切に願っております。

大勢の皆さまの参加をお待ちしています!

プロフィール

- 1944 東京生まれ。
- 1972 東京工業大学大学院 理学博士
- 1972~84 東京都公害研究所
- 1987 弁護士登録。
- 1993~96 埼玉大学非常勤講師 (環境政策論)
- 1995~2000 関東弁護士会連合会公害対策環境保全委員会委員長
- 02~07 長野県条例アドバイザー座長
- 02~08 長野県公共事業評価監視委員会委員
- 06~08 滋賀県RD最終処分場対策委員会委員
- 07~現在 町田市最終処分場 閉鎖等検討委員会委員長

ゴミ弁連とは

「たたかう住民とともにゴミ問題の解決をめざす100人の弁護士の連絡会」の通称。

**皆様の一層のご支援を
お願いいたします!**

- カンパ振込先
- 八十二銀行白馬支店
普通口座:137464
名義:ハクバゴミモンダイカンパ
 - ゆうちょ銀行
口座記号番号:00520-2-83674
名義:白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会

白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会ニュース

発行:白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会(会長:宮田温巳)
白馬村北城八方口5897-1(たきみや) <事務局>TEL:0261-72-2527 FAX:0261-72-7465



北アルプス広域連合の計画する「ゴミ焼却施設」の何が問題なのか

(梶山正三氏の講演会資料より)

1. イントロダクション

- ・ゴミってなあに？
- ・ゴミ問題の本質
- ・ゴミマフィアが牛耳る日本のゴミ政策



3 本件焼却施設計画に明日はあるか

(1) 広域連合ってなんだろう？

- ・一部事務組合と広域連合の違い
- ・広域連合が招く「排出現場」と「ゴミ処理現場」の分裂

(2) 誤りだらけの「説明」は、なぜ？

1. 「ゴミ足りない」の時代～目前に迫る施設の遊休化
2. 廃棄物焼却に潜む大きな危険
3. 大気汚染防止法が全ての危険を覆い隠す
4. 生活環境影響調査と環境影響予測評価は何のため
5. ダイオキシン問題は冰山の一角
6. TDI に関する嘘と無知
 - ・ TDI はどんぶり勘定
 - ・ 1998年 TDI は重要な意味の変更を生じた
7. ゴミ焼却炉の真の危険性はどこに？
 - ・ 泥棒は「表口」から出て行くの？
 - ・ 重大な危険物質はみんな「カヤの外」
 - ・ 臭素化ダイオキシンに関する嘘
8. リスクアセスメントに関する「屑籠いっぱい」の説明
 - ・ 毒性評価の基本原則
 - ・ リスクアセスメントができない
 - ・ 有害物質は「食物経由」？
 - ・ 薄い毒ガスと化学物質のスープ
 - ・ 人間は「化学物質に強い」？
9. 合意形成という名の情報隠匿
 - ・ 「合意」と「押しつけ」の違い
 - ・ 真に必要な情報は常に隠されている
10. 施設のライフサイクルだって？
 - ・ 時代錯誤の発想
11. 広域処理と施設大型化・連続化は破綻への王道
 - ・ 目指すべきは施設を「造らないための」の広域化

(3) 本件焼却施設は、ほんとうに必要なのか？

1. ゴミの分類と組成
2. ゴミ量の推移
3. ローテクを駆使したゴミ行政へ
4. ゴミ量の「減らし方」原則
 - ・ 「排出抑制」から「発生抑制」へ
 - ・ ゴミ問題の鍵は「製造」段階に
 - ・ 事業系ゴミと家庭系ゴミの区分
 - ・ 事業者責任と引取・回収
5. ほんとうの「排出原単位」から占うゴミ量の将来推計
6. 何よりも怖い「ゴミ処理施設は不要」論

2. ゴミ処理とゴミ処理技術

(1) ゴミの「処理」と「循環型」

- ・ ゴミの「処理」ってなんだろう？
- ・ 「循環型社会」の虚構
- ・ 国が「循環型社会」を唱えるこれだけの理由

(2) 中央集権的ゴミ行政の展開

- ・ 地方自治蹂躞作戦・その1～その3・・・
- ・ 巧妙なマインドコントロール

(3) ゴミ処理技術が地方財政を破綻させる

- ・ ゴミ焼却の科学
- ・ 除害施設とその限界
- ・ ゴミ処理技術とゴミ政策の関係
- ・ ゴミ処理に「高度な技術」は要らない

明日のエコでは
まにあわない！

この大北のすばらしい自然を子どもたちに残すために
私達のできることを、もう一度考えてみませんか？



4 これからの課題

- ・ 住民運動は氷河期を越えた？
- ・ 財政破綻と人口減少がもたらす日本社会の変革
- ・ 各地の事例から